

市とすゝるために

目指して、各委員会で先進都市を視察～

※印が掲載した項目です。

◆福祉経済委員会 (10月22日～24日)

※千葉県柏市

地域包括ケアシステム構築へ向けた
取組について

東京都東村山市

むさしの認定こども園について

東京都多摩市

島田療育センターについて

◆企画総務委員会 (10月15日～17日)

千葉県千葉市

消防団支援の取組について

※埼玉県春日部市

シティセールスについて

千葉県野田市

空き家対策について

地域包括ケアシステム構築への取組み

—医療・看護・介護等の連携強化を—

福祉経済委員会委員長 新海 真規

シティセールス戦略を展開する春日部市

—市内外から選ばれるまちを目指して—

企画総務委員会委員長 清水 行男

目的
高齢化率が28%を超える千葉県柏市豊四季台団地における地域包括ケアシステムの構築の取組について学ぶことで本市の保健行政についてを再考する。

視察内容
医療部門との連携を図るために、病院に理解を求め、多種の専門医による「顔の見える研修会」を開催し意思の疎通を図っている。ルール作りや市民への啓発と意識改革のために年間60回以上に及ぶ意見交換会などの開催在宅ケアの不安を取り除くための説明会も開催している。

平成26年4月に開設された「柏地域医療連携センター」では病院から在宅に戻る際の調整支援や、多職種による在宅医療・看護・介護のコーディネート機能、在宅医療に係る医師の研修機能、市民相談等に関する役割を果たしている。

目的
自治体間競争が激しさを増す中、地域への愛着を育み、まちのイメージを向上させ、定住人口の増加を図るシティセールスの取組みを学ぶ。

視察内容
シティセールス広報課を新設し、多岐の所管に渡る取組みを統括的かつ戦略的に1つの政策課題として実行している。地域への愛着を醸成する取組みが3段階のステップで行われており、現在は第1段階の市民を「まきこむ」取組みとして、市民ワークショップを開催している。その他にも、情報発信力を強化するため「まちの情報誌」の発行、食のブランド化を図る「かずかペードセレクション」の認定、地域資源等を再認識するための親善大使の任命など、アイデアを盛り込んだ多くの事業を展開している。

感想・成果

柏市内の在宅療養支援診療所、訪問介護ステーションや在宅診療所などの在宅サービス事業所数は年々増えており、自宅での看取り数も増えている。また、生活支援や補助を短時間ずつ請け負う「生きがい就労」の確立にも取り組んでいる。

柏市のシステムが刈谷市でも参考になると考えられるため、柏モデルの研究を深めて本市に相応しい形を考えていく。



地域包括ケアシステムの先進事例を研究

委員会の動き

企画総務委員会

◆所管事務調査

野田地区の分割(市からの報告)

○これまでの経過

昭和41年の東刈谷駅の開業等に伴い、市内で一番大きい地区となる。

昭和61年より分割に関する研究が始まる。

平成25年10月に検討会議が発足し、住民説明会等を経て、26年10月に野田地区より市へ要望書が提出される。

○要望の内容

①野田地区を小学校区(朝日・東刈谷)で二分割

②地区名は、野田地区及び東刈谷地区

③分割開始時期は平成27年4月1日

〔問〕分割による住民のメリットは。
〔答〕地域行政事務などが効率よく進めることができるほか、地区全体に目が届きやすくなることで、きめ細かい対応が可能になる。

その他、「親善大使」「地域防犯夜間巡回」などが話し合われました。

福祉経済委員会

◆所管事務調査

技能五輪全国大会

〔問〕会場を誘致して実施した大会の評価は。

〔答〕来場者は目標であった1万1,000人を1万人上回り、ものづくりのまち刈谷を大いにPRできたものと考えている。

その他、「刈谷駅周辺の喫煙対策」「交通児童遊園の移動販売」「第6期介護保険事業計画」などが話し合われました。

建設水道委員会

◆所管事務調査

街路樹の維持管理について

〔問〕江戸川区の街路樹管理について、市の見解は。

〔答〕路線ごとに街路樹の目標樹形を定めて管理していることや委託業務の質的向上を図っていることなどは参考になると考えている。

その他、「避難道路沿道の家屋の耐震化」「刈谷駅北地区市街地再開発」などが話し合われました。

魅力ある刈谷

～より住みよい、住み続けたい刈谷市を

- ◆文教委員会 (10月15日～17日)
 - 岩手県盛岡市
遺跡の学び館について
 - ※秋田県秋田市
学力向上の取組みについて
 - 宮城県仙台市
新たな学校防災教育について

- ◆建設水道委員会 (10月22日～24日)
 - 東京都江戸川区
新しい街路樹デザインについて
 - 群馬県前橋市
中心市街地活性化等によるまちづくりについて
 - ※静岡県浜松市
スマートインターチェンジについて

学習指導に学力状況調査を活用 ～教員をサポートする仕組みとしても有効～

文教委員会委員長 加藤 峯 昭

目 的
全国学力・学習状況調査でトップクラスに位置する秋田県の中心、秋田市の学校教育における各種取組を学び、本市児童生徒の学力向上に向けた参考とする。

視察内容
小中9年間を見通した系統的、発展的な指導計画のもと、発達の段階に応じたきめ細かな学習指導、生き方指導を実践している。小中学生が豊かな心を育む交流活動についても連携が図られている。

具体的な取組みとしては、全国学力学習状況調査のほか市の独自調査、県の調査も含め結果を分析・考察し「授業改善のポイント」や「実践事例集」として体系的に整理し、教員が活用している。実際に効果のあった指導方法は、他の教員にフィードバックされるような仕組みとなっている。



各種学力状況調査の分析により作成した指導手引きを全ての教員が共有して活用

感想・成果
秋田市では家庭学習は当たり前という考えが風土として根付いており、子どもの高い学力を支えている。

本市においても学力状況調査の分析・活用のように、現場で指導に当たる教員をサポートする仕組みについて、大いに参考にするほか、家庭学習の充実に向けても、地道な指導を継続することが必要であると感じた。

スマートインターチェンジ設置効果を検証 ～利便性の向上、産業・観光振興等に繋がる～

建設水道委員会委員長 黒川 智 明

目 的
刈谷ハイウェイオアシスにおけるスマートICの設置を今後検討していく中、設置による市民の利便性や経済効果等について、浜松市の事例から学ぶ。

視察内容
浜松SAスマートICは総工費16.7億円（ICから市道接続部分までの市負担額は高速道路区域のためほぼゼロ）であり、平成24年4月に設置されている。

主な効果としては、高速道路へのアクセスの向上や、企業立地・近接する浜松フルーツパークの入場者数が大幅に増加したこと、防災航空隊と連携し防災拠点として機能していること等が挙げられる。そのほか、三方原・館山寺にもスマートICの設置を計画しており、恵まれた交通環境を活かし、利便性の向上や観光振興等による地域活性化を見据えている。



スマートIC設置による効果を研究

感想・成果
朝の慢性的な渋滞緩和や、物流コスト低減効果による産業振興、関東方面・関西方面からの物流等の中継地点、また大規模災害時の防災拠点として有効的に活用する等、様々な効果が期待される。

ただし、ハイウェイオアシス近郊の県道名古屋岡崎線は、休日には慢性的な渋滞が発生していることから、周辺道路の改善を合わせて検討していく必要がある。

文教委員会

◆所管事務調査 学力向上の取組み

〔問〕学力向上に向けた取組みについて、どのような方策を考えているか。

〔答〕少人数授業を充実させ、子ども同士が学び合う授業を推進するとともに、市独自に実施している総合学力調査の結果を分析し、各学校に具体的な指導方針を示していく。
その他、「登下校の安全」「命の教育」などが話し合われました。

議会トピックス

◆中学3年生が議会を体験

(平成26年10月30日～11月14日)
表紙の写真でもご紹介しましたが、市内の全中学校3年生が、「地方自治制度学習」として、刈谷市議会を訪れました。

議会事務局の職員から議会の仕組みなどについて説明を受けた後、模擬議会を行いました。

生徒の感想を掲載します。
・議会の判断が市を変えるという、責任感をもって、議員一人一人が刈谷のことを決めていることが分かりました。
・議員や市長はみんなの代表だから、自分の意見に合う人を選ぶ力を身につけて刈谷の発展に協力しようと思います。
・議長席に座ってみると、自然と気持ち引き締まり、私たちの暮らしをよりよいものにするために話し合う姿がイメージできました。

・市議会の傍聴に行くことで、もっと議会を身近に感じられたらと思います。
【これからの刈谷市に望むこと】
・住民の意見を一つ一つ丁寧に扱って、問題の少ない、安全なまちを持続させてほしいです。
・多くの企業が本社を構える刈谷の特色を活かし、官民一体となって、CEMSやスマートグリッドなどエネルギーの有効活用を図り、持続可能な社会の実現を目指してほしいです。